

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『ルカ ⑦— 二人の女性の人生が
出会う！』 武田真治牧師

詩編 34:2-11 ルカ福音書 1:39-48

今日の箇所は、マリアがエリザベトの家を訪ねた出来事です。以前から疑問とされて来た点は、どうしてエリザベトの所へ行ったのかという点です。天使から“受胎告知”を受けた時、マリアは「お言葉どおり、この身に成りますように」と受け入れました。その時の天使の言葉「エリザベトも男の子を身ごもっている。不妊の女と言われたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない」ことをわざわざ“確かめに行った”のなら、まだ完全には信じていなかったということになるのではないかと。どうでしょうか？

天使はエリザベトのことをマリアに伝えた時にわざわざ「あなたの親類（＝家系が同じ）エリザベトも」と告げていますから、二人は知り合っていたと考えられます。故に、マリアは、自分のことはさておき、念願の子供を授かった彼女のもとに行き『おめでとう』という“祝福の言葉”を言ってあげたいと思ったのではないのでしょうか。それが「マリアは出かけて、ザカリアの家に入ってエリザベトに挨拶した」とある、その「挨拶」の内容であったと考えられます。

そして、その「マリアの挨拶をエリザベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった」のでした。この「おどる」は（飛び跳ねる）という言葉です。喜びの表現なのです。後にイエス様の道備えをすることになる洗礼者のヨハネが、マリアの「挨拶」に対して「挨拶」を返したとも言えますし、胎内から母親のエリザベトに対して『この方は特別な人だよ』とサインを送ったとも考えられます。このことで、おそらく急にマリアが訪ねて来て驚いていたであろうエリザベトは「聖霊に満たされて、声高らかに『あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています』とまさに“祝福の言葉”による「挨拶」を返しているのです。そして、続けて『あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。主がおっしゃったことは必ず実現

すると信じた者は、なんと幸いでしょう』と語る言葉は、マリアだけでなく、エリザベト自身もその“信じた者”に入れていることの「幸い」を表明している言葉なのです。

この言葉はマリアをととも勇気付け、励ましたことでしょう。祝福の言葉を伝えようと来たのに、逆にエリザベトのその胎内の赤ちゃんから“祝福の挨拶”を受けたのですから！

この三人の姿は、主の日毎に礼拝に集う“私たち”の姿とも重ねられます。各々の場所から集められ、ここに至るまでの神様の御守りと御導きを感謝しながら、お互いに“祝福の挨拶”を述べ合う仲間、兄弟姉妹として！この姿は、まさにイエス様の『二人または三人が私の名によって集まるところには、私もその中にいる』言葉そのものです！

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 4月3日(水) 20:00
II. 4月4日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈禱主題: 社会委員会を覚えて
担当者: (水)大竹 (木)高橋
祈りに覚える人: 吉岡さん 吉川さん

【教勢報告】

主日礼拝 男20 女55 計75
祈禱会 I. 男5 女3 計8 II. 男1 女10 計11
日曜学校 幼稚科8 小中科7 計15
ひつじ雲の会(3月26日(火)) 男0 女5 計5
早天祈禱会 25日14人 26日14人 27日15人
28日15人 29日18人 合計76人

【次週主日礼拝】 4月7日(日)

聖書: 詩編 35:9~10
ルカ福音書 1:46~56
説教: 「ルカ⑧— マリアが歌う讚美歌」
武田真治牧師

讚美歌: 127(1)、32、190、178、520、
79(1~2)、29(1)

【次週当番表】

司式: 茨木長老 奏楽: 村上 礼拝: 保坂長老
配餐: 齋藤 坂田 羽倉 保坂各長老
献金: 岡田 岡野 受付: 西尾 森本
会堂準備: 浅井 阿部 齋藤 山田
看板: 保坂 週報: 岩佐 お花: 森本

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・4月誕生者祝福 ・長老会 ・会堂管理委員会
・お茶の会 ・牧師と語る会

2024年 3月 31日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>